

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	LOHASなスローワークプロジェクト ＜自然環境を活かしたスローライフ体験やIT学習から、やりがい生き甲斐を見出します＞		
法人名	学校法人未来学舎		
学校名	国際コンピュータビジネス専門学校		
代表者	理事長 青山 織人	担当者 連絡先	倉田敬一 TEL0263-26-5500

1. 事業の概要

社会に出られず閉じこもりがちの若者たちに、社会に参加する元気・やる気を出してもらいたい、それがこのプロジェクトのねらいである。

職に就かない、または職業に就きたくても就けずに家に閉じこもりがちになっている若者、かれらが職に就かずにいる理由は、職業意識の欠如だけではなく、その他、多数の要因が関連しているのであろう。これらの要因が彼らの社会復帰力や社会に対する情熱・やる気を奪ってしまっている。さらに、閉じこもっていることからの不規則な生活、不適切な食バランス、運動不足などの原因に伴う体調不良が彼らのやる気をさらに低下させ、職業意識を消失し、社会へ出る意欲を奪っているのではないだろうか。

彼らには、職業に就くことを考える以前に、まずは体に良い食生活をしてもらいたい、運動をしてスッキリしてもらいたいのである。規則正しい生活、食生活をこころがけ、人間本来の持つ力、やる気等を再び見出してもらいたいのである。本プロジェクトでは、安心安全な食について学び、調理し、食す。野外に出て農作業をする。定期的に運動の時間をもうけ、体を動かす。同じ立場の若者とコミュニケーションをとる。それらにより、自らの体調を整え、気持ちを明るくし、新たなことに挑戦する元気とやる気を見出すことが目的である。

また、「健康」と切り離すことができない「地球環境」に目を向け、生活上、「安ければいい」「効率がよければいい」という選択基準ではなく、「それは、自分や他人の身体に悪い影響を与えないものか」、「それは、地球環境にとってマイナスにならないものか」を考え、消費や行動を選択していくロハスな生活(LOHAS: lifestyles of heath and susustainability)、スローライフ、スローフードを合わせて考えていくことを目的とする。

1. 若者の興味ある分野についての調査

アンケート調査を行い、若者の興味ある分野について調査した。調査対象者は求職中の職業訓練生、専門学校生、ニート支援NPOに通っている若者103名である。

2. ニートの特性についての調査

ニート、引きこもり支援を行っているNPOからの助言をいただき、ニートの特性、注意すべき点を挙げた。同時に講座をする上での注意事項をまとめた。

3. プログラムの開発

興味ある分野についての調査、ニートの特性についての調査で得た結果をもとに、プログラムを構成した。

4. 実証講座

開発した教育訓練プログラムの有効性を確かめるために実施した。講座名を「LOHASなスローワークプロジェクト」とした。

実証講座では、開発したプログラムの有効性を検証する。

受講生を対象としたアンケートなどから検証した結果に基づいて、受講生の意識や動向を調査・検証した。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

・受講生が「自分を見つめ直したこと」、「食生活について考えるようになったこと」、「自分と周りの人が元気になったこと」などはこの実証講座の効果である。

・ニートという特徴をもったものに対して、まず、彼らの現食生活環境を考え、心身共に健全に育成して行くことに取り組んだことは効果的だった。

②事業により得られた成果

成果1

講座終了後、受講生に「講座を受けてよかったことは何ですか?」という聞き取り調査をした。即座に返ってきた言葉は「元気になったことです」であった。多数の受講生よりその回答が聞かれた。一番の目標であった「仕事を考える前に自ら元気になる」ということが達成できた。

成果2

講座を受講し、仕事へのイメージがわいたという受講生が、講座終了後に、自らマクロビオティックの料理教室を開いた。

成果3

本講座受講生の数名が、受講生の一人が自宅で開いた料理教室に参加した。本講座を通じて人とのつながりができ、また、家にこもりがちだった受講生も進んで外へ出られるようになった。仲間ができたこと、自ら行動する気持ちになれたこと、もっと勉強したいという意欲を持てたことは本プロジェクトの成果である。

成果4

体調が思わしくなく、就労経験がない受講生が、自ら進んでヤングハローワークに登録し、就職活動の第一歩を踏み出すこととなった。

成果5

パソコンに苦手意識があり、受講前から憂鬱を感じていた受講生が、講座が進むにつれ興味を持ち、本プロジェクト終了までにパソコンを購入するまでに至った。

成果6

講座終了後、就職のための資格取得に向け、引き続き勉強をすることとなった受講生がいた。2名が簿記講座へ参加、1名が医療事務職業訓練へ参加。

成果7

本講座終了後、「食」についてもっと詳しく勉強したいと、受講生の一人は今回のマクロビオティックにも関連のある「薬膳アドバイザー」の資格を通信教育で取得した。その後、「食生活管理士」、「食育指導士」、「食育アドバイザー」の資格を取得すべく努力している。

成果8

講座で学んだナチュラルスイーツを広めようとした受講生が新聞の記事として掲載された。

③今後の活用

・高校、大学、専門学校などで不登校になった学生を、一定期間、本プロジェクトのような一貫とした講座を受講させることによって、学校に復帰させるきっかけになるのではないかとと思われることから、活用していきたい。

・今回のようなプロジェクトに、ニート者を生み出さないための講座として、家族のメンバーも参加できるような講座を設けることは重要と考える。つまり、自分の子供や兄弟をニートにならないためのニート予防策の講座として本プロジェクトを取り入れてみたい。

④次年度以降における課題・展開

- ・ 今回の実証講座は、限られた時間内に実施しなければならなかったため、特に、引きこもりの受講生に対して、余裕のある時間割りではなかった。これを教訓として、今後の計画・企画の際に、無理のない余裕を持った時間割を検討した講座を講じる必要がある。
- ・ 今回のプロジェクトの主な目的である「元気を出す」ということに対して成果を得たが、「職」に直接導けるものには必ずしも至らなかった。今後、ニートが自立するための次のステップについて検討して行く方針である。
- ・ 今回の実証講座で用いなかった分野・部門の社会労務、社会保険制度、年金制度、税金諸々に関する一般知識について、学習させることは社会における自分の位置づけ、責任感などを把握・考えるきっかけになることが期待されるのではないだろうか。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

今回は、全過程の終了時に、講座独自の「修了証書」を学校長名で発行した。(27名)

②カリキュラムの内容

本プロジェクトは食、農・エコ、運動、コミュニケーションの4つの柱で組み立てられた講義にする。

(食部門)

本プロジェクトの大きな柱の一つである食部門では、体に良いもの、バランスの良いものを摂るように「食」に対する知識を身につけることである。また、「元気の秘訣」として「おいしいものを食べて元気になる」という目的もある。

食の部門の講座は以下の5講座である。

- ・天然酵母パン
- ・マクロビオティック
- ・ナチュラルスイーツ
- ・ハーブ
- ・米飴づくり体験

ハーブ講座はリラックス効果の体験講座である。米飴づくり体験ではもち米から水飴を作る体験といった、ロハス、スローフードを意識してもらおうための体験講座である。

(農・エコ部門)

このプロジェクトの中心として、「信州松本の自然環境や農場」を活かすこと、また、農地へ出て自然に触れること等を取り入れ、すがすがしい気持ちになってもらえるよう、「農業」を大きなテーマにしたかった。しかし、10月11月と季節的に条件が悪く、目標としたものを学ぶことができず、時間数を多くすることができなかった。その分、農業の重要性や、安全な食材等について講義の時間に学ぶようにした。また、関連して、還元可能、リサイクル可能な生活を目指す、そのヒントを学ぶということで、エコ体験ツアー、無添加石けん作成体験、エコたわしづくりなどを取り入れた。

農・エコ部門の講座は以下の通りである

- ・自然農講義
- ・自然農体験
- ・エコツアー
- ・環境配慮の生活
- ・無添加石けんづくり体験

(運動部門)

「運動」については”体を動かし、スッキリする”、”楽しく運動する” という内容で、週に1度以上は時間をとるようにし、以下の講座を設けた。

- ・西アフリカ文化(アフリカンダンス・太鼓・料理)
- ・フットセラピー

コミュニケーション部門

「コミュニケーション」については、コミュニケーションを苦手とするニートの若者達が、就労に向けて学習するスキルの1つとして、コミュニケーションスキルアップ講座を行うこと、また、これから仕事をしていく上で、最低限の基礎はできるようにしておいてほしいパソコンを、情報発信、情報収集、またコミュニケーションの手段としても利用できることを兼ねた内容で、基礎を学ぶ内容にした。

- ・コミュニケーションスキルアップ
- ・パソコン実習

③講座の実施

実証講座は10月と11月2回実施した。

10月16名、11月11名、合計27名の受講生となった。

募集は35歳以下で仕事に就いていない方・学生でない方とした。

実証講座 10月(150h)

LOHASなスローワークプロジェクト

期間 平成20年10月1日～10月31日(150時間)

受講者 16名(女性16名)

教室・講義場所

- ・国際コンピュータビジネス専門学校
パティシエ・ブーランジェ学科校舎
1階多目的ホール(アフリカンダンス・フットセラピー)
2階実習室(調理実習)
3階講義室(講義)
- ・丸山農場
- ・シャロムヒュッテ

受講者出席率 80.3%

就職活動のため、1名は講座出席率は50%以下であった。

実証講座 11月(150h)

LOHASなスローワークプロジェクト

期間 平成20年11月4日～12月4日(150時間)

受講者 11名(男性1名 女性10名)

教室・講義場所

- ・国際コンピュータビジネス専門学校
パティシエ・ブーランジェ学科校舎
1階多目的ホール(アフリカンダンス・フットセラピー)
2階実習室(調理実習)
3階講義室(講義)
- ・丸山農場
- ・シャロムヒュッテ

受講者出席率 94.6%

④支援対象者(受講者)の状況

10月開講講座、11月開講講座、2回の実証講座を行った。内容は同じものである。

受講生募集については、10月講座、11月講座とも、

- ・ニート支援のNPOからの受け入れ
- ・ジョブカフェへチラシを置くことによる募集
- ・マスコミ広告による公募
- ・当校での職業訓練の経験者より募集した。

(10月講座)

講座への出席率は80.3%であった。

全講座終了後のアンケートで、「講座を受講して良かった点」について尋ねたことに対して、複数の回答を得た。その中に、最も多かったのは、「普段出来ない体験ができた」で、94%であった。次に、「いろんなことに興味を持てた」で、88%であった。つまり、この結果から、彼らに普段出来ない体験をさせ、いろんなことに興味を持たせることは十分可能だということである。しかし、「仕事へのイメージがわいた」とか「好きなことが見つかった」という回答については30%であった。

講座を終えて特に気づいたことは、出席率が低かったことや、講座後アンケートの「興味を持てたかどうか」の興味を持てた人数が少なかったこと等より、「農」に関する関心・興味が他の分野に比べて極めて薄いということであった。

(11月講座)

講座への出席率は94.6%であった。

11月の講座終了時のアンケートで、「講座を受講して良かった点」について複数回答で記入してもらった。その結果、「普段出来ない体験ができた」、「友達や仲間ができた」が100%全員がよかった点として回答している。続いて「いろんなことに興味を持てた」で91%であった。「仕事へのイメージがわいた」と回答した受講生もいた。

10月の講座において「農」に関する興味・関心が薄かったことについてであるが、11月に開催した自然農業講座は、10月の講座と比べ、受講生の出席率や興味に大きな差が見られた。10月の講座の受講生の出席率は58.3%であるのに対し、11月の受講生の出席率は90.9%と、かなり多かった。また、農場実習においても、10月の受講生の出席率は62.5%だったことに対し、11月の受講生の出席率は100%と、全員の参加であった。アンケート結果によると、興味についても「興味をもてた」受講生が10月講座は71%、11月講座が97%と30%近くもの差がある。よって、このことから、受講生それぞれの興味・関心には違いがあり、一概に若者は「農」についての関心が薄いとは言えないことが確認できた。

全体を通しての受講生の様子について

(アンケート結果)

- ①大変満足……………16名
- ②やや満足…………… 7名
- ③普通…………… 4名
- ④やや不満・大変不満…………… 0名

アンケートからは、総じて満足度が高かった。

カリキュラムが多彩でバリエーションに富んでいたこと、毎回成果物があった事、誰でも取りかかりやすい内容であった事などが結果的に満足感を持ってもらえたと推測される。

食や健康という日常的な事に興味ある人が集まった結果でもある。

興味を持って楽しい講座ではあったが、直接仕事に結びつけるには、時間不足であった。

10月の受講生は、一部の仲の良いグループでまとまってしまいがちであった。11月はほとんどが新聞広告を見ての申し込みであった。そのため、受講生全体が仲がよく、まとまっていた。

11月申込者は新聞広告を見て自ら考え希望したためか、講座に対しての熱意も強く感じられ、出席率も94.6%ととてもよかった。11月講座申込者に対しては、募集時に面接による選抜も行ったので、スタッフもそれぞれの受講生の現在の様子、今後の希望等わかり、講座が進めやすかった。